

名事研ニュース No.163



名古屋市立小中特別支援学校事務研究協議会 <http://meijiken.sakura.ne.jp/>

今年度も新型コロナウイルス感染症対策の観点から参集しての開催を見送り、紙面による定期総会が行われました。その結果、令和3年度事業・決算報告、令和4年度事業計画、予算案等が承認され、本年度の名事研事業がスタートしました。

あゆみをとめない～変わる学校に新たな価値を創造する学校事務～ 会長 早川 数幸

令和4年度事業について、紙面による定期総会を経て、本格的に事業がスタートしました。令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症による影響は、他の研究団体の活動を見ても、少しずつ元に戻りつつあるようですが、まだ予断を許さない状況が続きます。この経験を生かし、Web会議システムなど、現在の環境でも可能な新しい会の運営方法を検討・実施し、学校や家庭などで様々な事情を抱える方でも活動しやすく、充実した活動が行えるよう努めます。



名古屋市教育委員会は、令和4年度より学校教育努力目標を「ともに学び自分らしく生きる」とし、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を一層図るとともに、「安全で幸せな居場所となる学校づくり」を重点事項と設定し、大きな変革を目指しています。この変化において、学校事務分野の関わりは大変重要と考えます。学校が新しい教育活動を推進するためにはこれまでと同様の仕組みでいいのか、「子どもの居場所づくり」のための環境整備に必要なことは何かなど、状況に適した学校事務を行うために、常に考え、研究することが必要です。一方で、変化に対応するうえで、まずは安定した学校事務を行う土台が必要であり、そのためには日常の業務や研修等を通じた資質向上が不可欠です。そして、基本一人職である学校事務職員の存在意義の発揮のため、多くの人と交流し、様々な情報に触れ、それを如何に学校に還元するかも重要となります。

このように、名古屋市の学校が大きく変わろうとする中、名事研も今年度よりテーマを「あゆみをとめない～変わる学校に新たな価値を創造する学校事務～」としました。これからの学校に何が必要かということを考え、子どもたちが「自分らしさ」を見つけられるように支援するとともに、私たち学校事務職員がその専門性を発揮し「自分らしく」学校で「事務をつかさどる」ことができるための組織でありたいと思います。会員のみならずおおよび関係機関のみならずにおかれましては、今後ともご支援をお願いしたいと思います。

令和4年度の名事研事業計画について

副会長 小島 啓治

本会事業は、代議員会で議決された各部局の令和4年度事業計画に沿って展開していきます。コロナ禍における名事研活動も3年目となり、この間は電子メールを始め、Web会議システムやLoGoチャット等の活用を試行錯誤し、経験を積み重ねています。この経験や他の研究団体の動きを参考に、従来は参集を原則としてきた会合や研修会等について、参集の有無を柔軟に判断していきたいと考えています。また、事務局、各専門部及び特別委員会においては、名事研テーマ「あゆみをとめない～変わる学校に新たな価値を創造する学校事務～」を体現するため、会員を始め内外と連携して事業を推進していきます。

本会事業を進めていくにあたり、会員の協力を始め外部組織・団体からの支援なくしては、成立しないと考えています。昨年度からの検討事項である、名事研がこれからも持続的に活動できる組織体制や運営のあり方について、事務局が中心となって検討を進めていきます。併せて、これまでの「つながり」を維持発展させるため、外部組織・団体との渉外に力を入れ、本会の学校事務研究を始めとした活動について、よりご理解、ご協力いただけるよう進めていきます。

専門部紹介

事務局

事務局長 清水 麻里子

事務局では、名事研が活発で円滑な活動を行うため、会の運営や調整にあたっています。主に事業計画の策定や研究大会の運営、学校事務職員名簿等の発行物の作成、内外組織との連絡調整や連携を担っています。

今年度は、今後を見据え、より効果的かつ持続可能な名事研組織の在り方について、昨年度までの協議を踏まえながら検討を進めていきたいと考えています。学校事務や名事研を取り巻く様々な環境の変化に適応しながら、会員一人ひとりがやりがいをもって研究会活動に関わることができる組織となれるよう、これまでの形にとらわれない柔軟な発想力で臨んでいきたいと思っております。会員のみなさまは、ぜひ積極的にご意見をお聞かせください。ご協力よろしく申し上げます。

研修部

研修部長 近藤 拓也

研修部では、全体研修会や小規模研修会「事務-Gym」（じむジム）の企画・運営、自主研修資料の作成・更新による研修の支援などを通して、学校事務職員の資質向上のサポートを行います。

昨年度はLoGoチャットを活用した自席でのオンライン研修という、これまでにない方法で全体研修会を開催しました。今年度も従来の方法のみにとらわれず、会員それぞれの学びや成長の「あゆみをとめない」ための研修機会を提供できるよう努めていきます。

どのような研修であれ、それを完成させるための最後のピースは、会員のみなさまの参加です。研修会や研修資料をぜひ積極的に活用していただき、感想やご意見をお聞かせください。より良い研修の形をともに考えていきましょう。

研究部

研究部長 上村 友太

研究部では昨年度に引き続き、名古屋の学校事務組織の効果的な在り方について研究を進めます。具体的には、SWOT分析等のフレームワーク（考えを論理的に整理し、問題解決等に役立てるための思考法）や学校評価等を活用した目標・戦略設定について、他自治体の事例を調査します。また、学校間連携と教職員・学校組織との関係構築につながる実践事例を、内外より幅広く収集します。さらに、学校間連携の効果を中長期的に高められるような制度等へのニーズについて、会員への意識調査・分析を行います。

そして、これらの取組みから、シームレス（継ぎ目のない）なつながりを創出し学校現場と教育行政の架け橋となる、新たな学校事務組織について検討し、提案します。

情報部

情報部長 齊藤 綾子

昨年度、多くの会員のみなさまに使っていただいている予算管理ソフト「すいすい予算管理」の更新を行いました。今年度も、実務の効率化や、学校事務の情報化を目指した活動を進めていきたいと思っております。また、学校含め関係機関に名事研事業についてわかりやすく伝えるために「名事研ニュース」の発行やHP更新等を行ってまいります。そして、会員向けに、名事研と学校事務に関する様々な情報を掲載した広報誌「じむけん！」の発行や情報調査（会員アンケート）等を行ってまいります。

様々な変化の中、あゆみを止めず進んでいこうとする学校事務職員にとって、役立つ情報やコンテンツ等は何なのかを模索し、形にしていくことをねらいとし、活動を行っていききたいと思っております。